

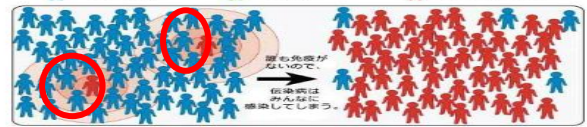
麻しんの大流行を振り返る

麻しんはワクチンにより防御できる疾患であるとされています。昨年日本は、WHOから「麻しん排除状態」と認定されましたが、今回関西空港を利用した人から H1(中国・モンゴル発生)、D8(東南アジア発生)の麻しんウィルスが検出され、海外からの持込でした。終息を向かえ、今からできること・・・

麻しんは、感染力がきわめて強く、手洗い・マスクのみでは十分な予防はできません。特効薬がなく重症化するためワクチン接種が必要です。

赤は「感染者」、黄は「抗体あり」

「抗体あり」が多く存在すると感染の広がりが少なく経過できます



医療従事者は、予期しない曝露を受ける、感染源になる可能性があります
⇒抗体価の測定(採血)を後日実施しますので御協力下さい

インフルエンザワクチン!

昨年度のインフルエンザでは、持込みと思われる感染拡大により、患者さま・職員の予防投与が必要となりました。

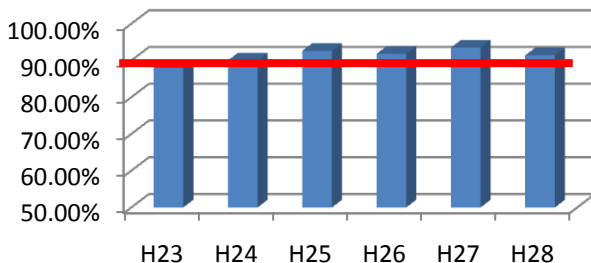
今年度は感染を拡大させないよう皆様ご協力下さい!

- ◆ 咳症状のある人は、すぐにマスク着用
- ◆ 職員は手指衛生遵守
- ◆ 患者・面会者の手指衛生・咳エチケットに 対して指導をすすめる
- ◆ 症状のある人は、無理な出勤を控え、受診
- ◆ 発症した職員(同居者を含む)は、すぐに報告
- ✓ 解熱後3日間の休業
- ✓ 発症後マスク10日間の着用



今年度のワクチンは

職員インフルエンザワクチン接種率



90%以上をキープ

■平成28年度インフルエンザHAワクチン製造株

A型株	A/カリフォルニア/7/2009 (X-179A) (H1N1) pdm09
	A/香港/4801/2014 (X-263) (H3N2)
B型株	B/プーケット/3073/2013 (山形系統)
	B/テキサス/2/2013 (ピクトリア系統)